

あゝ 故郷よ！

今回はショパン&ドヴォルザーク。

故郷への思いを存分に込めて、涙とともに書き綴った

名作をお楽しみください。故郷のように温かい徳島の皆さまと、

またお会いできるのを楽しみにしています。

スタインウェイアーティスト 田尻 洋一 文化の日に **新** **世** **界** を弾く

2025年 11月3日 **月** 文化の日 14:00 開演
13:20 開場

あわぎんホール (徳島市藍場町2丁目14)

全席自由

3,000円

当日は500円増

すべて 税込み

※未就学児は入場できません

プレイガイド

■徳島新聞社事業局 ※徳島新聞各販売店でも取次します

■黒崎楽器本店

小・中・高・大学生無料招待！

※中学生以下は、保護者(1名無料招待)同伴必須

お申し込みは… 徳島新聞社会文化事業団まで
HP(右記二次元コード)または、TEL.088-655-7365にお問い合わせください



Program

ショパン

- 軍隊ポロネーズ
- 雨だれ前奏曲
- 3つのエチュード op.25より
「エオリアン・ハープ」
「ホ短調」
「木枯らし」
- ノクターン 第20番 遺作
- アンダンテ・スピアナートと
華麗な大ポロネーズ

ドヴォルザーク

- 交響曲 第9番
「新世界より」(田尻編曲)

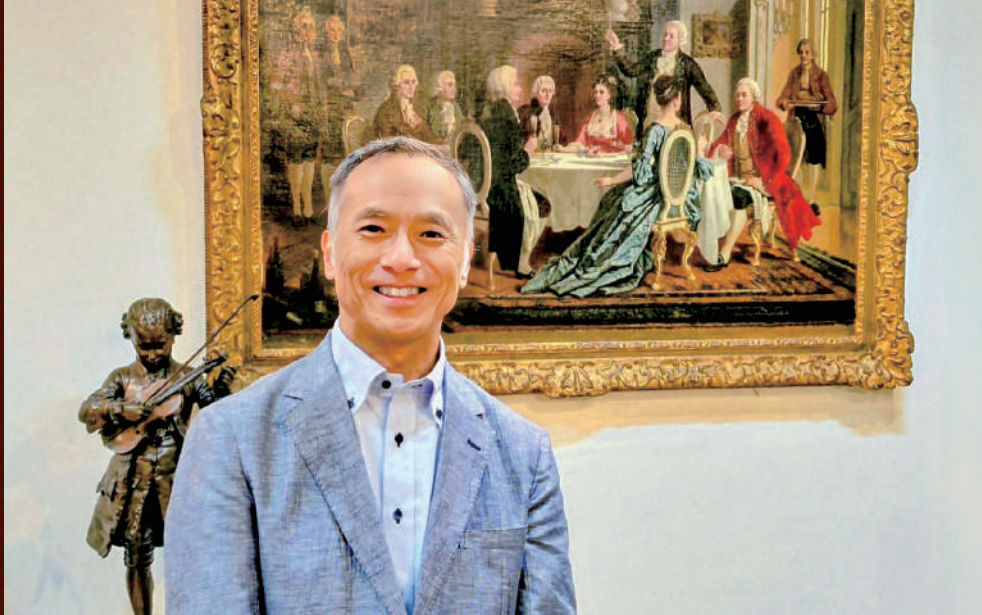
演奏曲目は変更になる場合がございます。
予めご了承ください。

■お問い合わせ

徳島新聞社事業局

TEL.088-655-7331 [平日 9:30~17:30]
〒770-8572 徳島市中徳島町2丁目5-2

主 催／徳島新聞社 特別協力／白井俊美 (第1回徳島新聞奨学生)



Profile

田尻 洋一

コンサートピアニスト

1962年神戸生まれ。8歳よりピアノを、10歳より作曲を始める。桐朋学園大学卒業後、渡欧して天才イディル・ビレット女史の唯一の弟子として研鑽を積む。他に故松浦豊明氏、故M.リンパニー女史、J.F.フルニエ氏に師事。

ピアノリサイタルを主に全国各地で活動、その数は1200回以上に及ぶ。これまでに古典・ロマン派の主要作曲家のピアノ作品全曲演奏会という世界でも類を見ない偉業を達成。また管弦楽曲などのオリジナルピアノソロ編曲版を次々と発表、新たなコンサートスタイルを確立している。

96年より開始された独特なスタイル・作曲家別集中全曲演奏コンサートで、ベートーヴェン32ピアノソナタ全曲を5度、モーツァルト、シューベルトピアノソナタ全曲を2度、ショパン、シューマン、ブラームスピアノ作品全曲を2度ずつ開催。またショパン24前奏曲＋24練習曲、リスト12超絶技巧練習曲全曲コンサートなども敢行。

2000年よりコンサートに取り入れ始めた管弦楽曲のオリジナルピアノソロ編曲版では「ブラハ」「第九」「運命」「田園」「英雄」「未完成」「新世界」「悲愴」交響曲を始め、「皇帝」などのピアノ協奏曲、オペラ序曲ほか数多くの作品を手掛け、ベートーヴェンの9交響曲全曲、ブラームスの4交響曲全曲演奏も完遂。

人気シリーズコンサートも数多く、伊丹トーク＆ピアノコンサートシリーズは88回、明石リサイタルシリーズは160回を超えるロングラン。10年はアメリカ、11年からは毎年2回のペースで欧州リサイタル公演に招聘されており、国外での活動の場を広げている。14年は日本スイス国交樹立150年記念リサイタルに2度招かれる。

演奏の特徴は、膨大なレパートリーに裏付けられた音楽に対する深い造詣・教養力と、自ら開発した独特な透き通る柔らかな美しい音・自然な息遣い…それらオンリーワンの特質が相まって、心底から感動を沸き立たせる芸術観。「心から心へ」をモットーとした一期一会の「生演奏」にこだわり続け、真に芸術性の高い人間味ある真摯な演奏活躍を続けている。

国際ピアノコンクール審査員(スペイン・ルーマニア)歴任。スタインウェイハンプルク本社よりスタインウェイアーティストの称号を授与されている。20年初リリースされた伊丹ライブ録音による「ベートーヴェン交響曲第7番(田尻洋一編曲)」が毎日新聞にて絶賛され話題を呼ぶ。21年無観客ライブによる「バッハのゴールドベルク変奏曲」を、22年田尻洋一編曲ベートーヴェン交響曲全集ライブより「The Live I・II」のCDを相次いでリリース。

25年1月13日に徳島で初の公演。あわぎんホール(徳島市)のスタインウェイピアノで、ショパンの珠玉の名曲と、自身の編曲による、ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」のピアノ単独演奏を敢行。満席の聴衆を感動の渦に巻き込んだ。その記憶も新しい今回はショパンとドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」をピアノのみで演奏する。深い楽曲理解に基づき、制作された背景、込められた思いを語るのが田尻洋一ならではのスタイル。それも聞きどころの一つとなっている。